

自分の手で、山の未来をつくる ～自伐型林業と伊賀市の林業の未来～

伊賀市の約6割を占める森林は、木材生産に加え、水源を育み、土砂災害を防ぐなど、私たちの暮らしを支える多面的な役割を持っています。これまで伊賀市では、所有する山を自ら管理する自伐林家や、森林組合、林業事業体などが中心となり、森林の管理や木材生産を進めてきました。

一方で、林業は担い手不足や高齢化、森林の適切な管理など、さまざまな課題を抱えています。こうした中、地域に住む人が自ら山を管理し、木材を生産する「自伐型林業^{*}」が改めて注目されています。

今回の特集では、自伐型林業に取り組む関田昇さん、小倉丈一郎さん、そして林業施策について助言する地域力創造アドバイザーの中嶋健造さんに話を聞きました。伊賀市の森林が抱える課題や、自伐型林業の魅力、これからの伊賀市の林業について紹介します。

^{*}森林の所有の有無や面積の規模にかかわらず、森林の経営や管理、施業を自ら行い、間伐を繰り返しながら森林を育て、持続的な収入を得る林業のスタイルです。チェーンソーや小型重機などを使い、環境への負荷を抑えながら行うのが特徴です。

図 未来の山づくり推進課 ☎ 41-0934 FAX 22-9715



伊賀市の森が抱える課題

- **林業従事者の減少、高齢化**
担い手が減り、高齢化が進んでいます。
- **放置される森林の増加**
手入れが行き届かない山が増え、災害のリスクも高まります。
- **山の境界が不明瞭**
所有者や境界が分からない山が多く、管理や林業の妨げになっています。

自伐型林業の魅力

- **低コスト**
初期投資が数百万円程度に抑えられます。
- **作業道づくり**
小型重機で狭い作業道を整備し、森林への負荷を抑えながら木材を搬出します。
- **環境と防災の両立**
森林を育て、長期的な森林経営をめざしながら、優れた木を残して間伐をするため、山の保水力や防災力が維持できます。



作設した作業道で木材搬出



伐倒



枝払い



造材



集材・積み込み

山を育て、人を育てる。受け継がれる林業



自伐型林業者
関田 昇さん

会社員として働きながら、50代頃から親が管理していた山に入るようになる。山での仕事に面白さを感じ、定年退職後に本格的に林業へ。木を育て、次の世代につなぐ山づくりに取り組む自伐型林業者。



自伐型林業者
小倉 丈一郎さん

新潟県出身。農機具メーカー勤務を経て、一次産業への憧れから林業の道へ。林業事業体で経験を積み、関田さんのもとの林業を学ぶ。独立して4年目の自伐型林業者。

関田さんは50代頃から親が管理していた山に入るようになり、山で作業するうちに面白さを感じ、会社を定年退職してからは本格的に林業に取り組むようになりました。

現在は2トトラックでの木材の搬出や重機を使った作業道づくりを中心に山の仕事を続けています。

関田さんは「間伐して、いい木を残す。光が入れば残した木が成長する。5年後、10年後に良くなっている山をつくるのが大切。」と語り、長く木材を生産できる山づくりと向き合っています。

また、「けがをしないことが一番。あと少しだからと無理をすると、けがをしたり、ミスをしたりする。」と余裕をもって作業し、“安全第一”を心掛けています。

そんな関田さんのもとの林業を学んだのが小倉さんです。木材市場で働いていた際に関田さんと出会い、林業について話す中で意見が合うことが多く、実際の現場で学びたいと思い、小倉さんから一緒に仕事をさせていただきたいとお願いしました。

関田さんから教わったのは、技術だけではなくありません。「自分のできる範囲でいいから、人に対して親切にしろ。そして良心的で親切な山づくりをして、山林所有者との信頼関係を築きなさい。」など、林業を続ける上で大切な姿勢も教わりました。

小倉さんは伊賀・名張の林家や山林所有者から仕事を受け、林業に取り組んでいます。その山に合った仕立て方で作業をすることに、林業の面白さを感じています。

「山の見方は三者三様。関田さんの意見を参考にしながら、自分自身の山の見方を探しています。」と関田さんから仕事を任されるようになった今、以前よりも仕事への責任感も増している様子でした。

関田さんから受け取った技術や考え方を土台に、自分なりの林業を築いています。

そして関田さんも、「小倉は私にとって、なくてはならない存在。これから地域で活躍できる林業者として、真面目に、親切に山と向き合ってもらいたい。」と、小倉さんとの出会いを大切にしています。

技術を教える、教わるという関係を超えて、山と向き合う2人。その姿から、地域に根ざした担い手が育っていく過程が見えます。

伊賀市の森林は、これからの武器になる



伊賀市地域力創造アドバイザー
(林業施策)

中嶋 健造さん

高知県出身。全国各地で自伐型林業の普及や担い手育成、地域づくりに取り組む。NPO 法人自伐型林業推進協会代表理事。令和8年4月から伊賀市地域力創造アドバイザー（林業施策）を務める。

全国各地の森林・林業の現場を見てきた中嶋さんから見た、伊賀市の森林の可能性とは

「伊賀市は山とまちが近く、林業の現場へもアクセスしやすいです。また、標高がそれほど高くなく、険しい山が少ないため、林業に取り組みやすい環境です。これまで森林整備が十分に進められてこなかったことは課題ですが、見方を変えれば、未整備の森林が多く残っていることは、これからの武器になります。」

中嶋さんが提唱する自伐型林業は、木を育てながら適切に伐採する「多間伐施業」です。

「森林環境を良好に維持・再生させながら、長く生産できる森に変えていく担い手を育てていくことが大切です。これまでの林業は一部の関係者だけが関わる場合が多いのですが、伊賀では、行政、森林組合、森林所有者、地域、これら森林関係者全員が協働する形で推進していきます。この全方位型で林業の担い手を増やしていければ、全国的にも先進的なモデルになり得ます。」

さらに、林業を地域の仕事として捉えることにも可能性があるといいます。「林業を入口に、農業や観光、福祉などと組み合わせた『兼業型の働き方』が広がれば、担い手が増え、地域が元気になると思います。自伐型林業は、未経験からでも技術を身につけられる仕事です。ぜひ多くの人に山に入ってもらいたいですね。」